

横網町公園内 慰霊堂・復興記念館見学会 実施記録

主催：まちづくりネットワーク緑

共催：備六会、わいわい広っぱ

記録：樋口誠

日時：2022年（令和4）12月8日（木） 10時40分～12時40分

場所：東京都墨田区横網町公園内 東京都慰霊堂&東京都復興記念館

参加者：<まちネット緑>樋口、片山、池田

<備六会>石川

<防災塾・だるま>相原、植山、小林、斎藤、佐藤

<神奈川新聞社>渡辺

目的：第1回まちネット勉強会（9月1日実施）で訪問しているが、今回は東京都慰霊協会の学芸員による解説を受けて震災と戦災について学び、認識を深める。

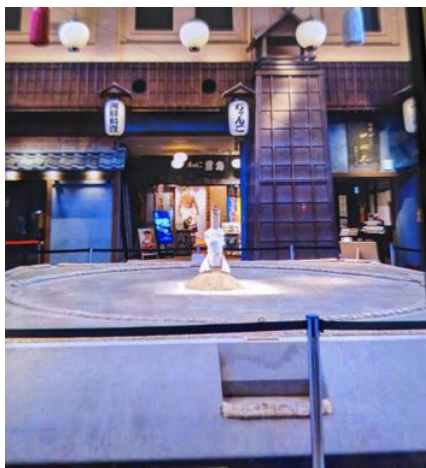
資料：①震災と戦災を考えよう（チラシ） ②祖母が守ったやかん（池田さんの父親の手記） ③中央气象台予報課長藤原咲兵の調査研究（相原さんが用意した資料）④関東大震災100年 特別寄進のお願い ⑤タウンニュース（横浜市緑区版：9月29日号）⑥参加者名簿

1. 集合：両国観光案内所

JR両国駅西口前の土俵のある観光案内所に集合、池田さんからスケジュール（下記）の説明があった。

慰霊堂見学（*）→ 復興記念館見学（*）→ 駅前の「ちゃんこ」で懇親会（ランチ）

*小菌学芸員による解説付き



両国観光案内所にある土俵。正面にある「ちゃんこ霧島」で懇親会を行った。

右は、復興記念館前で撮った参加者の集合写真（右端が小菌学芸員）

2. 都立横網町公園（旧陸軍被服廠跡）で、東京都慰霊協会学芸員の小菌さん（関東大震災の研究でドクターを取得）を紹介され、解説をお願いした。

公園内に池田さんと妹さんが、東京都が実施している「思い出ベンチ」の制度（公園の古くなったベンチを、応募者からの寄付で新しいベンチに交換する事業。寄付されたベンチには、名前や簡単なメッセージ等を表示したプレートを取り付けている）を利用し

て寄付した「ベンチ」がある。



3. 東京都慰霊堂見学



1923年（大正12）9月1日、関東大震災で燃え広がる火災から逃れた4万人が、当時「被服廠跡」と呼ばれていた当地に逃げ、火災旋風に巻き込まれて亡くなり、1930年（昭和5）寄付によって「震災記念堂」が建てられた（伊東忠太の設計）。1945年（昭和20年）3月10日の大空襲により仮埋葬されたお骨が、焼け残った当地に納められ「東京都慰霊堂」に名称変更された。

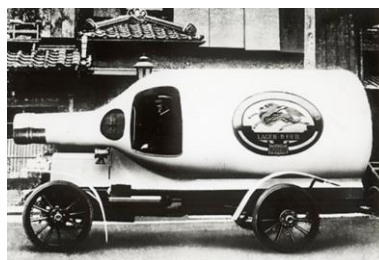
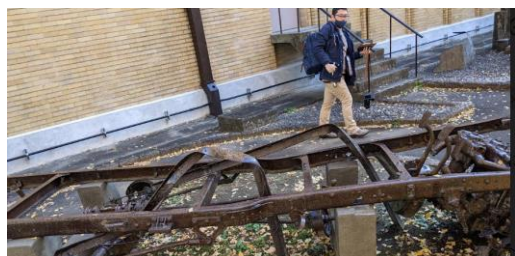
慰霊堂の中は、正面に2体の大きな位牌（左が空襲で亡くなった方々、右が大震災で亡くなった方々）があり、後方に長机を並べてある（教会の様にも見える）。慰霊堂の裏手には大きな納骨堂があり、震災で亡くなった方の58,000柱、空襲で亡くなった方の103,000柱の遺骨が安置されている。

納骨堂および亡くなった方々の名簿は、9月1日（大震災の日）と3月10日（東京大空襲の日）のみ公開されている。

4. 東京都復興記念館見学:

(1) 屋外ギャラリー:

関東大震災の被災品（溶けた鉄柱や溶解して大きな塊になった釘、車のシャーシ等）中でも印象に残ったのは、明治屋がキリンビールの宣伝に使っていた「ナンバーワン自動車」のシャーシ。



ナンバーワン自動車

(2) 復興記念館内

1 階展示室：関東大震災の発生から復興に至るまでの写真、図表、実物資料を展示。

<印象に残った展示と、展示物に加えられた加工（展示者の意図）>

* 皇居前広場に殺到した群衆の写真（足の踏み場が無い人混みと、大八車に積み込んだ家財道具）

→この写真に火災で発生した炎と煙が加えられている（写真に迫力を持たせるためのジャーナリスト魂？）

* 「尋ね人の提灯」と、誰がどこへ逃げたかが記載された「避難者カード」

→避難者カードは、東京帝大の学生がボランティアで整理したそうだ。

* 被災直後の炊き出しの写真（性別、職業に関係なく一緒に助け合い、炊き出しをしている。「災害ユートピア」ともいうべき光景）



* その一方で、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」等のデマが流され、多くの人々が殺されたのも事実。言葉をしゃべらせて「朝鮮人」と判断されれば殺されたそうだ（方言が理解できずに朝鮮人と判断されたこともあったようだ）。

* 震災時、住民の協力で奇跡的に延焼を免れた神田佐久間町、和泉町の記録（図録と文章）が残っている。

2階展示エリア：①&② ①を重点的に説明して頂いた



小園学芸員の解説に聞き入る参加者たち。

<印象に残った説明と展示>

① 回廊部分（東京空襲および戦災復興に関する資料）

* 戦時中は「防空法（空襲に遭っても逃げずに火を消せ）」によって、避難できずに亡くなった人が多くいた：神田佐久間町の事例を過大に信じたのかもしれない。

* 隅田川沿いの浜町公園は、震災を受けて広域避難場所として使われていたが、戦時中は、空襲に対する高射砲の陣地となり。立ち入ることが出来なくなった。

* 花やしき動物園（檻の中から見えた絵：中にいるトラの目線。トラは、この後射殺されたそうだ）



*巨大な巻物の絵画（巡回展示し、募金を募ったらしい）

② ホールおよび中央展示室（大規模震災絵画・模型等）

*焼け残った医療機器や雑煮茶碗・顕微鏡



5. 懇親会（神奈川新聞社の渡辺記者は、業務都合により不参加）

「ちゃんこ霧島」で昼食とり、懇談しました。

<参加者の感想>

- 慰霊堂には、何度か来たことがあるが、学芸員による解説は初めて。盛りだくさんの話が聞けて良かった。
- 1人で訪ねただけでは分からないことが沢山ある。
- 展示物の絵解きや、制作された背景などが興味深かった。
- 震災時の気象データに興味があり、自分でも確認してみたい。

6. 関東大震災 100年 特別寄進 資料-④

参加者（渡辺記者を除く9人）に寄進の了解を得て、1人1000円ずつの寄付を頂いた（解説をして頂いた小藺研究員への御礼という意味もある）。

これに、まちネット緑（主催団体）から1000円を足して、1万円を東京都慰霊協会に寄付した。

以上